この大蛇は向いの山の沼に住む龍だともいわれる。

今も、向いの高い山を龍ケ峯と呼び、沼のあった所を沼ケ平と呼んでいる。

犬のために建てた供養塔があるので、石仏という字名が付けられた。県道工事のため道路が広くなり崖が切り立ち、その上の西方に町の水道浄化槽ができて、犬石の所に行くのには不便となった。

この話は私が幼い頃、勢至堂小学校の佐久間という先生に聞いた話です。

（話者　柏木平蔵）

壇九郎狐

《下江花》

長沼町から江花に通ずる（現在は県道）道路の中間に、一里塚があった。現在は畑に開墾されてしまったが、私たちの小学校に通学していた頃は、畑の中の道路のかたわらに、雑木が繁った、二間四方ぐらいの塚であった。たぶんこの塚は道の両側にあったものと思われる。北側は重畳たる山々で、夜な夜な狐が出て人々をなやましたといわれ、人々はここの狐を壇九郎狐といっていた。

私の曽祖父も、ある時、親戚のご祝儀に招待されて、ご祝儀の引出物の塩引やその他の魚類などを藁つとに包んだものを背負って、夜中にこの一里壇の道を通りかかった。すると、どこからともなく砂を頭上からばらばらとまくものがある。初めは気にもしなかったが、たびたび砂をまいたり木々をゆすったりする。